

## 川崎市麻生区でのスミナガシ幼虫の記録

An Nymphalid Butterfly *Dichorragia nesimachus* from Asao Ward, Kawasaki City

山本 晃

Akira Yamamoto

スミナガシ *Dichorragia nesimachus* (Doyère, 1840) はタテハチョウ科の中型の蝶で、その幼虫と蛹が特異な形態で知られている南方系の蝶である。成虫の発生は5月と7月末～8月の年2回である。

スミナガシは川崎市北部の多摩丘陵においては1970年代中頃までは広く生息していたが、当時から個体数としては多くはなかった。その後、開発が進みこの蝶を見ることは無くなった。

筆者は2000年7月に麻生区黒川で1本のアワブキの木で複数の幼虫を確認した。多摩丘陵の西側の続き東京都町田市小野路の方に残存していたスミナガシが飛来したのであろう。

その後まったく観ることがなかったが2008年10月に同じく黒川で4齢幼虫1頭と若齢幼虫の食痕複数を確認した。

2009年5月に同地にて初齢幼虫を採取。飼育。羽化させた。

2009年10月初めの同地での調査では幼虫は観られなかったが中齢幼虫食痕を多数確認した。

川崎の蝶として消滅と復活の境にある種として観察記録を報告する。

### 記録

4齢幼虫1頭目撃、川崎市麻生区黒川、2008年10月8日、山本 晃。

1齢幼虫4頭採取、川崎市麻生区黒川、2009年5月18日、山本 晃。

食痕確認、川崎市麻生区黒川、2009年10月1日、山本 晃。

### 著者紹介

山本 晃 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 昆虫班



図 スミナガシの食痕